舌打する

蘭郁二郎

青空文庫

チェッ、と野村は舌打をすることがよくあった。彼は遠い昔の恥かしかった事や、口惜しかったことを、フト、なんの連絡もなしに偲い出しては、チェッと舌打するのである。

（あの時、俺はナゼ気がつかなかったんか、も少し俺に決断があったら……）

彼はよくそう思うのであった。けれど夢の中で饒舌であるように、現実では饒舌ではなかった。女の人に対しても口では下手なので、手紙をよく書いた。けれど矢っ張り妙な恥かしさから、彼の書いた手紙には、裏の裏にやっと遣る瀬なさを密めたが、忙しい世の中では表てだけ読んで、ぽんと丸められて仕舞った。

又女の人と一緒に歩いても、前の日に一生懸命考えた華やかな会話は毛程も使われなかった。そして、彼はただ頷くだけの自分を発見して淋しかった。然しその時は、ただ一緒に歩くだけで充分幸福であるのだが、あとで独りになると、チェッと舌打するのである。

小学校三年の時、一級上の女生徒と、なぜか一緒に遊びたかったけれど、言い出す元気もなく、その子の家の『小田』と書かれた表札を何度も読みながら、わざと傍目も振らず行ったり来たりして、疲れて家に帰った——そんな遠い遠い昔の事を不図偲い出して、又チェッと舌打するのである。

……といって、野村は、爪を截りながら、私の顔を覗きこんだ。

私は一寸、いやあな気持がして、

『誰でもさ……』

とタバコの煙りと一緒に吐出した。

青空文庫情報

底本：「怪奇探偵小説名作選7　蘭郁二郎集　魔像」ちくま文庫、筑摩書房
　　2003（平成5）年6月10日第1刷発行
初出：「自由律」
　　1932（昭和7）年8月号
入力：門田裕志
校正：川山隆
2006年11月13日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

舌打する

蘭郁二郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/